



クライアント側から Web サーバを認証する フィッシング対策ソリューション フィッシュウォール 「PhishWall」

フィッシング詐欺は 企業ブランドへの脅威

フィッシングは、個人情報や資産の詐取を目的した詐欺行為だが、企業ブランドへも大きな悪影響を与える。それは、顧客がフィッシング詐欺の対象となった企業のWebサイトを信用できなくなるからである。

いつ、どこに出現するかわからないフィッシングサイトを事前に検知して削除することは事実上不可能である。しかし、顧客にとっては、複数のそっくりなWebサイトのどれが本物かを判断することは非常に困難である。ある調査によると、80%以上の人々がフィッシングサイトを立てられてしまった企業のWebサイトにマイナスイメージを持っているそうである。

フィッシング対策は、企業が顧客に「安心」というブランドを提供するた

めの経営戦略の一環として必要不可欠なものである。ビジネスバリュー向上のための自社のWebサイトが、個人情報詐取のための悪意を持ったツールになってからでは遅いのである。

日本国内でも出始めた被害

昨年までは米国で大きな被害が報告されていたが、最近では、日本でもその被害が出始めている。実際の被害金額も報告されており、今後ますますの拡大が予想される。

【日本国内で発生したフィッシング事例】

- ・UFJ銀行（2004年9月）
- ・イーバンク銀行（2004年10月）
- ・Visa Japan（2004年11月）
- ・Yahoo! Japan（2004年11月）
- ・UFJ銀行（2005年3月）
- ・みずほ銀行（2005年3月）

- ・Visa Japan（2005年7月）
- ・UFJ銀行（2005年7月）
- ・Yahoo! オークション（2005年11月）
- ・Yahoo! かんたん決済（2006年1月）

最近の詐欺の手口と被害コスト

多くの企業は、フィッシング詐欺に関してWebサイトで「メールでIDやパスワードを確認するようなことはありません」などの注意を促している。また、関係機関からは「メールのリンクはクリックしないでください」などの対策情報も発信しているが、それだけでは偽装サイトへの誘導は防げない。DNSスプーフィング、hostsファイルの書換えのように、ユーザーを偽サイトに誘導するための媒体（メール等）を使わない手口である「ファームング」も確認されている。

米国での年間の被害額は2004年で1,000億円以上と言われている（米国ガートナー社調べ）。しかし、企業にとっての被害は潜在的なものも含むため、計り知れない。サポートコスト、顧客への保証、フィッシングサイト閉鎖、そして詐称された自社ブランドの回復など、さまざまなコストがかかり、非常に大きなダメージを受ける可能性がある。

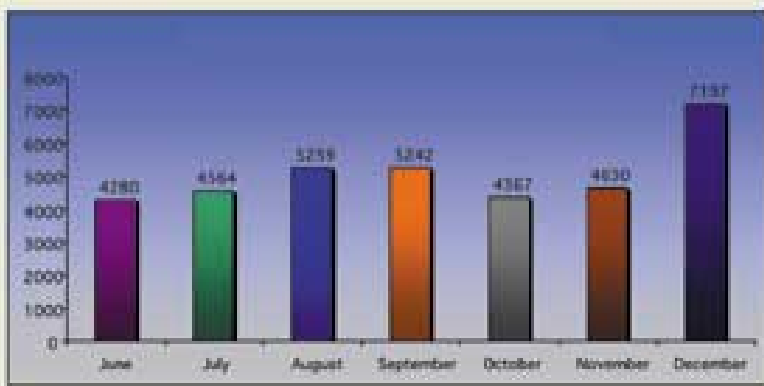


図1 フィッシングサイト数の推移（2005年6月～同年12月）

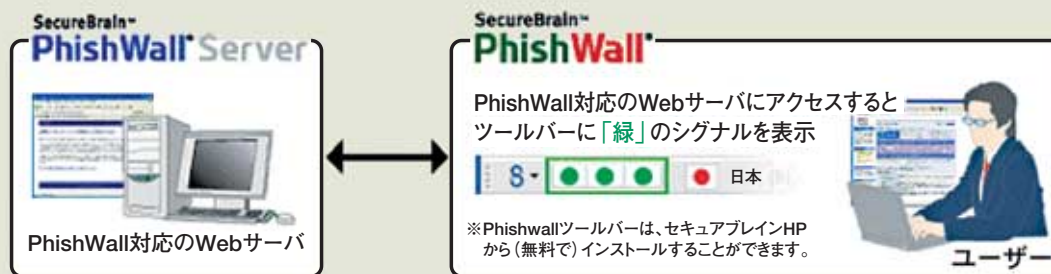


図2 PhishWall導入のイメージ

間の信頼関係」を構築することを第一のコンセプトとして作られたセキュリティソフトウェアである。既に、(株)ジェーシービー、(株)ディーシーカード、(株)ニッセン、(株)外為ドットコムな

どの企業に導入されている。

有効な対策手法は？

Webサイトの安全性については、いくつかのソリューションが存在しているが、決め手となるソリューションは存在していない。それは、多くのソリューションは、それを利用するユーザーに多くの負荷を強いるからである。顧客は安心してWebサイトを利用したいだけである。面倒な操作を要求すれば、それがどんなに安全なものであろうが逃げていくだろう。

顧客に安心を提供する フィッシング対策「PhishWall」

なぜフィッシング詐欺に引っかかってしまう人が多いのだろうか？ それは、本物のWebサイトとフィッシングサイトとの見分けがつかないからである。自社のWebサイトを訪れるお客様に「これは本物のサイトです」ということを、お客様にわかりやすく理解させることがフィッシング対策においては非常に重要である。

セキュアブレインが提供しているフィッシング対策ソリューション「PhishWall (フィッシュウォール)」

は、クライアントPC側からWebサイトを認証するソリューションである。自社のWebサイト上の「PhishWall Server」と顧客のPCにインストールされた「PhishWall ツールバー」との間で認証情報のやり取りを行うことにより、顧客のブラウザ上に「緑のシグナル」を点灯させる。これにより、安心そして安全にお客様は企業のWebサイトを利用することができるようになる。

ブランドの向上に繋がる フィッシング対策ソリューション

従来のソリューションは、Webサーバ自身を守るためのものであり、その安全性の確認方法も非常に難解なものだった。しかし、PhishWallは、ブラウザ上の「緑のシグナル」が顧客にとって「安全」の証となり、かつそれを簡単に確認することができる。

セキュアブレインが開発した認証技術(特許出願中：2004-195208)により、企業はインターネットを利用したビジネスにおいて、確実な「安心と安全のブランド」を顧客に約束することができる。

PhishWallはフィッシング詐欺における大きな課題である「企業と顧客の

セキュアブレインの強み

フィッシング対策とは、犯罪者(フィッシャー)との時々刻々の戦いである。新たな手口に対する迅速な対応(サポート)能力と高い技術力が必要である。

セキュアブレインは、日本発のセキュリティベンダーであり、開発・サポート、全て日本国内で行っているため、柔軟な対応が可能である。また、クライアントPCで使用される「PhishWall ツールバー」は、「緑のシグナル」だけでなく、危険なサイトを検知した際には「赤のシグナル」と警告表示により、顧客がフィッシングサイトに個人情報を入力してしまうことを防止する機能を備えており、メールなどを使わずに顧客を偽サイトに誘導する「ファームウェア」にも対応している。

お問い合わせ先

(株)セキュアブレイン

TEL : 03-32343001

E-mail : info@securebrain.co.jp

URL : http://www.securebrain.co.jp/